

	第1層コーディネーターのあり方	第2層コーディネーターのあり方
A	<p>地域で支援する為の地域づくりを目指していることを考えると、今までの福祉業界だけでは難しい(介護の社会化)。 町づくりとの連携が必要ではないだろうか考える。 <b>行政</b>の中で町づくりとの連携(横のつながり)コーディネーターを望む。</p>	<p>市民による町づくり、高齢者だけでなく、子育て、障害者、生涯学習、成人教育、支援を求める者はたくさんいることを考えると、地域の活性を含めた取組が必要なので、<b>社会資源を良く知っていてネットワークを構築できる人が望ましい。</b> できれば、市民活動をしているグループかボランティアグループが地域包括と手を取りあえれば一番良いと思う。</p>
B	<p>地域包括ケアシステムの中心はやはり「<b>行政</b>」が担うべきと考える。 その実行部分として、包括センター、自治会、そして民生委員が担うことで、今まで、我々が地域を形成し守ってきたやり方が一番であるとする。</p>	<p>事務局は<b>社協</b>が主体となり、民生委員、自治会、包括センター、福祉協力委員の連携が必要</p>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちづくり」の視点で考える。</li> <li>・第2層協議体からあがってくる課題をコーディネーターの立場から発言できる人。</li> <li>・まず、第1層のコーディネーターの選定より、<b>第2層を市民に周知させる方が先決</b>なのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の「地域会議」をうまく活用することで25名のコーディネーターが必要。</li> <li>・地区ごとで性格が異なるので、一律に選定しないで貰いたい。</li> <li>・継続性を考えると、「<b>まちづくり</b>」に興味のある方が望ましい。</li> </ul>
D	<p><b>1層、2層とも、出来るだけ早い時期に</b>、配置予定者を対象とした「生活支援コーディネーター養成研修」を開始し、実務者育成を市として始める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中核都市の規模からすると、統括推進、進捗管理等の上位コーディネーションの役割が大である。更に、市の福祉施策ビジョン(総合事業サービス等の適正な実施等)を提案する必要がある。同時に、2層における展開状況の情報集約、各2層の活動への中間支援的、市内全生活支援コーディネーターへの育成指導的活動を指導するなどが役割であろうと考える。</li> <li>・これらには、業務についての相当の<b>専門性と専従性</b>が求められると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各日常生活圏域(包括分担エリア)に配置される必要がある。</li> <li>・複数名の構成も考えられて良い。(生活支援コーディネーター指導者中央研修で見聞したところでは)地域福祉の専門家(例えば社協)と、個別支援の専門家(包括)がセットで配置されている地域などもあった。</li> <li>・また、1層からではなく、2層から配置して準備しているといった区もあった。</li> <li>・(規模の小さい自治体かもしれないが)地域内の実践者の方が第2層生活支援コーディネーターを担われるパターンも見聞した。</li> <li>・2層生活支援コーディネーターの役割については、地域実態の調査分析、地域内におけるニーズ総量算出、新しい資源の開発など多岐にわたる機能が求められることから、実務的な専門形を組織し、あるいは<b>ネットワーク化できる“新しい専門職”</b>といった能力がある必要となるのではないかと考える。</li> <li>・したがって、宇都宮市の総合事業方針とビジョン(ロードマップ的な)を明確に市民に示し、それらを機能させる大きな要である生活支援コーディネーターの組織的な(特に2層生活支援コーディネーターの)養成研修を市として取り組み、人材の掘り起こしも含めて準備に取り掛かることが急務であると考えられる。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>①第1層のコーディネーターは、第2層のコーディネーターとの綿密な連携が求められる。</li> <li>②第2層のコーディネーターについて具体的な考え方が示されていない中では、第1層のコーディネーターのあり方について言及できない。</li> <li>③しかしながら、コーディネーターのあり方がどのような形になるにせよ、自治会等まちづくりに関わる組織との連携が不可欠であることから、<b>行政による総合的かつ強力なバックアップが必要。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人員体制は日常生活圏域(25圏域)あたり1名配置が望ましいと考える。</li> <li>②要請される役割を担うのに必要な知識やノウハウ等を身に付け、向上させるための研修が不可欠</li> <li>③自治会や民生委員等の地域の関係機関との協議の場や調整、きめ細やかな情報支援などが必要であり、コーディネーターが役割を十分に果たすため、一定の知識とノウハウを持ち合わせ<b>地域に精通した人材</b>が複数求められる。</li> </ul>

	第1層コーディネーターのあり方	第2層コーディネーターのあり方
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2層コーディネーターの中から選出、<b>事務局は宇都宮市</b>が担う。</li> <li>(第2.5層)</li> <li>市内を5つのブロックに区分し、第2層の生活支援コーディネーターを5圏域ごとの第2.5層の協議体に配置し、多職種連携を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3層コーディネーターの中で活躍されている方から選出</li> <li>日常生活圏域(中学校区)単位が示されてるが、市中心部においては圏域が中学校区とはなっていない。また、郊外と中心部では人口密度と広さに差があり、人数配置には、地域の実情に合わせて検討していく必要がある。</li> <li>今後本市の地域づくりを考えた際、どの圏域を基本にまちづくりを進めていくのか、確認しておく必要があると考え、地域における福祉の総合相談窓口(高齢者、障がい者、女性、子ども等)として、地域住民と行政とのつなぎ役となり得る人材が望まれる。</li> <li>それぞれの地域の生活支援ニーズを把握するとともに、地域包括支援センター、フォーマルサービス、インフォーマルサービスを把握し、<b>地域全体を見渡せる人材</b>。地域包括支援センターと連携して、地域会議で多職種連携を推進し、<b>地域ケア会議で必要な生活支援サービスをコーディネートできる方</b></li> <li>(第3層)</li> <li>高齢者のより身近な地域での暮らしを把握するためには、地域包括支援センターよりさらに細分化したエリア(小学校区や単位自治会単位ごと)の設定が必要であると考え。生活支援コーディネーターは、団体や役職で選ぶのではなく、支援を必要とする住民のニーズを吸い上げ、本人の支援に必要な組織・人・仕組み等の地域の社会資源と繋げられる、おせっかいで地域をよく知る方が適任である。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属先は<b>社会福祉協議会</b>もしくは、<b>地域包括支援センター</b>が望ましいと考える。</li> <li>社会資源について、深い知識が無いとコーディネートできないと考えられるため、候補者を出すことも大変な作業になるかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業開始当初から配置することは難しいのかもしれないが、まずは配置の方向で、上手く運営している中核市のモデルケースを参考にできればと思う。</li> <li>その地域において、より細かいニーズを見出す必要があると思うので、現段階で近い業種から移行してもらおうのも1つの方法かと考える。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当は<b>社協</b>が担い、市町村の全体的な所や運営状況の把握をしてPDCAサイクルを回しながら、資源開発・広報等を担う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当は<b>地域包括センター</b>が担い、活動状況の把握をする。</li> <li>実動的なところで、マッチング・ネットワーク作りを担う。</li> </ul>
I	<p>当団体では、これまで健康づくりや友愛活動を通じて、介護予防や支援を必要とする高齢者を見守り、日常的な生活支援活動に取り組んできたが、総合事業では、さらに多くの住民参加が求められることから、当団体のこれまでの活動経験を活かせるとともに、団体の活性化にも寄与するものと期待しており、<b>本市に合ったもの</b>を作りあげたらと考える。</p>	
J	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネーター、第1層は協議体(当分科会)で決めるという事だが、研修の受講は。</li> <li>市の職員に受講者がいるのであれば、第1層は<b>行政主導</b>ではないか。</li> <li>コーディネーターを最初から配置しなくても良いという旨だが、その場合、誰が、それぞれコーディネートをしていくのか、市長の言うNo.1都市を目指すのなら、宇都宮市としての、これに関する青写真をしっかり示す必要があり、ある程度の具体的方向性を説明していただきたい。</li> <li>平成29年4月からのスタートに向け、審議の方向性が見えない中で、コーディネーター選定はむずかしいと考えるが、まず、第1層が決定しなければ、第2層はなおさら、決定出来ないと考える。</li> </ul>	